

2020 年度 地域連携活動報告書

連携先名称：長野県長和町

協定締結日：平成 20 年 11 月 25 日

活動状況：継続中

連携先窓口：長野県 長和町 産業振興課 農政係 係長 高井 正之様

活動資金：大学予算

※長和町補助金未使用

担当教員（所属）：菅沼圭輔（食料環境経済学科）

活動体制（単位）：学科

関連教員（所属）：菊島 良介 助教（食料環境経済学科）、中窪 啓介 助教（食料環境経済学科）

活動目的：

新型コロナウイルス感染症禍におけるアクティブ・ラーニングの教育プログラムとしてのポイントがどこにあるのか再検討し、ヒトとヒトをつなげ、結ぶ関係の中身を理論と実践の両方から学生に教え、学んでもらうことにあると考えて、持続可能な学習と実践のあり方を模索した。

活動内容・成果：

- 1、リモートでの毎週の勉強会
- 2、リモートでの長和町との勉強会

勉強会は 24 回開催され、長和町（現地指導員、役場、立岩名誉教授など）とのリモートでの勉強会もその内、前期 1 回、後期 2 回の 3 回行われた。

- 3、12 月のリモートでの年度活動報告会

長和町の方々（同上）、学科の先生方にリモートで参加いただき、今年度の活動について報告会を行った。

- 4、秋のマルシェに参画

本年度は収穫祭が中止となり、実践の場が全くなくなることが危ぶまれたが、他団体と協力し、世田谷代田の農大アンテナショップでトマト班やキヌア PR 班などが協力し、マルシェを開催した。長和町の特産品や「長和のトマト」などを販売した（ほとんどの商品が完売）。注文の交渉などを通して長和町の方々とリモートで関係をつなぎ、結ぶ活動となった。また 1 年生は商品の POP づくりな

どを行った。

5、ふるさと CM 大賞応募

ふるさと CM 大賞の応募に際し、長和町で撮影が行えないなか、中止になるかと思われたが、学生たちはアイデアを出し合い、現地に行かなくてもいい脚本を書き上げた。長和町と東京の 2 箇所撮影し、それを「レッツ！長和かるた」という作品として完成させた。

6、キヌア洗浄水を使った石鹼の試作

キヌア化粧品班はキヌアの新しい商品開発を進めるため、長和雑穀研究会にキヌア洗浄水をご提供いただき、洗浄水を使った石鹼の試作を行った。

7、グリーンツーリズムの先行研究の整理

グリーンツーリズム班は、全国農協観光協会とのコラボにより、ツーリズムのプランニングを完成させていたが、本年度は実習中止に伴い、ツーリズムも行われなかった。代わりに観光、グリーンツーリズムに関する先行研究の論文を整理し、勉強会で報告した。

8、新型コロナウイルス感染症禍のなかでの実習を考える

新型コロナウイルス感染症禍において、どのような活動を行っていけばいいのか、様々なアイデアを出し合い、次年度以降の活動、実習につなげる提言を行った。

課題・改善点：

コロナ感染症対策を十分に立てて現地実習の再開を検討する。

限られた実習機会を効果的に活かすため、テーマ別に班編成を行い、現地と協議の上年度計画・中期計画を立てて地域貢献の具体的成果を提供できる体制を構築する。

～山村再生プロジェクト～
のうだい日記 No.100

私たち山村再生プロジェクトでは、実習を通して感じた事をワークショップで話し合いながら、地域再生・活性化の鍵を探っています。

令和二年度の活動について報告

三 寒四温の言葉どおり、冬が行き戻りしている昨今ですが、東京都内は日に日に春の訪れを感じております。令和二年度の山村再生プロジェクトは「長和町の魅力を町内外へ発信していくこと」を目標とし活動を始めました。しかし、新型コロナウイルスの影響により令和二年度の現地実習はすべて中止となり、山村再生プロジェクトの活動は大学構内での活動になりました。厳しい状況下でありましたが、様々な活動を行いました。

その集大成として、昨年12月11日にプロジェクトの年度活動報告会を、オンライン会議ツールZoomを使用し開催しました。コロナ禍での活動を役場担当職員、現地指導員、大学の諸先生にご報告するとともに、事態の鎮静化を条件に、来年度以降の実習再開に向けた協議を行います。



活動報告会で報告をする野上くん

した。感染症の拡大が止まらない現状で実習再開は難しいですが、今後、コロナウイルスを取り巻く環境が落ち着き、実習再開を見込めるようになることを願っています。今後の活動について議論を深めていく所存です。

今年度の活動の一部をご紹介します。ただきます。

今年度は「コロナ禍でのつながり」を意識し活動してまいりました。その一環として、7月と10月、11月の合計3回、町の現地指導員、役場担当職員にご参加いただき、Zoomを使用した現地交流会を実施し、町内での感染症の状況や観光業への影響などについて教えていただきました。

また例年通りであれば、各生産者様にご協力をいただき、長和町の特産品や加工品を大学の学園祭(収穫祭)で販売しておりましたが、本年度は中止となりましたので、世田谷区代田にある農大のアンテナショップでマルシェを開催し、販売活動を行いました。

大学ホームページや山村再生プロジェクトのInstagram等のSNSで情報を発信し、感染症の対策を十分にしながらの活動でした。買い物客の中には毎年、収穫祭にお越しいただき、長和町の特産品や加工品のファンになったという方も見られ、非常にうれしく感じました。この場をお借りして本年度の活動にご理解、ご協力をいただきました皆様深く御礼申し上げます。ともにコロナウイルスが落ち着き、町民の方々と再会できる日を心待ちにしております。

私たち山村再生プロジェクト学生委員会は、令和二年度入学の一年生を含め60名ほどの団体です。今年一年間は現場に行けない状況が続きましたので、気持ち切り替え、大学で長和町のことを調べ、活動を振り返る機会といたしました。

た。長和町のことを知れば知るほど町に行きたいと思いを寄せる学生が多くなります。安心安全の下で長和町に伺える日を学生一同願っております。最後になりますが、広報ながわの「のうだい日記」は今回が100回目の掲載です。150回、200回と続いていきますよう、今後とも更なるご支援を賜りたく存じます。

農産先生たちの一言

◆今月のレポーター
食料環境経済学科3年
野上翔太
大寒を過ぎ、寒さの中に少しずつ春の気配を感じられるこの頃となりました。未だ新型コロナウイルスの影響ははかり知れず、町の皆様も緊張の日々を過ごされているかと存じます。学生たちは今、新年度の山村再生プロジェクトの計画を立てているところです。まだ町を訪問したことのない一年生含め、現在の状況が落ち着きましたら、安全安心を大前提にまた、長和町を訪問できることを楽しみにしております。その日が早く来ることを心から願っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

食料環境経済学科
増田 敬祐

アートでまちづくり

～女子美術大学と連携した取り組み～

Vol. 11

【作品の紹介について】

「アートでまちづくり」のページでは、令和元年度の活動で女子美術大学の学生が、長和町に伝わる民話をテーマに制作した作品を紹介していきます。

「長和町 民話グッズ」

今回ご紹介する作品は、長和町に伝わる民話に登場するキャラクターをイラストとして表現し、クリアファイルやポストカード、ぬりえにデザインした作品です。

この作品は、民話の雰囲気味わうことのできるようなデザインになっており、現代風に寄せつつも、レトロ感のあるものとなっています。

また、デザインの中には、題材となった民話の本文や要約文を載せているので、物語を読んだことがなくても民話の概要を知ることができます。

民話のキャラクターを擬人化(※)することにより、幅広い世代の人気を獲得し、物語の内容を知らなくても、作品を手にとって頂き、民話を知るきっかけになればと思います。

(※) 人間以外のものを人物として、人間の特徴などを与える例のこと。



↑ポストカード



民話ぬりえ～若宮さま～



民話クリアファイルの表裏



作者：平原 滉音さん
(アート・デザイン表現学科
メディア表現領域4年)

【作者から皆さまへ】

長和町の民話がイラストを通して、みなさんの印象に残るよう、和風の雰囲気にしたり、どんな物語か見て分かるように工夫しました。とても良い経験になりました。

【民話クリアファイルの配布】

女子美術大学との連携事業では、令和元年度から2年度にかけて、長和町に伝わる民話をイラストなどで表現し、子どもたちや若い世代を中心とした多くの皆さんに、民話を知ってもらうことを目標とした活動を行いました。

その活動の一環として、今回ご紹介した作品のうち、「民話クリアファイル」を長門小学校、和田小学校の児童、依田窪南部中学校の生徒に配布をしました。

「アートをテーマとした構想事業」

ホームページではさらに詳しい内容をご覧ください。http://www.art-nagawa.jp

